

令和3(2021)年度

福井大学 文京キャンパス

共通教育科目 履修の手引き



国立大学法人 福井大学

共通教育部

School of General Education

目 次

共通教育科目履修上の基本用語

はじめに	1
I 共通教育の目標と概要	
1 共通教育とは	2
2 共通教育の教育課程編成の方針	
3 共通教育科目の構成	
3. 1 入門科目（大学教育入門セミナー）	3
3. 2 基礎教育科目	3
3. 3 共通教養科目	4
II 共通教育科目の履修方法	
1 入門科目（大学教育入門セミナー）	5
2 基礎教育科目	
2. 1 外国語科目	6
2. 2 保健体育科目	8
2. 3 情報処理基礎科目	8
3 共通教養科目	
3. 1 履修方法	10
3. 2 履修制限	10
3. 3 開講日・時間	11
4 教員免許状取得希望者の必修科目	11
5 まとめ	12
III 共通教育科目の履修登録方法	13
IV 共通教育科目の授業日程と履修科目登録期間	15

V 成績評価と単位の修得

1	成績と可否の判定及び成績評価基準	15
2	出席について	16
3	履修を中止した場合	16
4	試験について	16
5	追試験について	17
6	留学時の「科目未修了」(I : Incomplete) の取扱いについて	17

VI 既修得単位の認定と他大学等授業科目の履修

1	既修得科目(単位)の認定について	18
2	他大学等との単位互換制度について	18
3	放送大学との単位互換制度について	19
4	入学前及び他大学での既修得単位、他大学や放送大学等との単位互換で 修得した科目の単位認定について	19

表1	共通教育科目の学習目標	20
表2	共通教育科目区分、授業科目名及び単位数一覧	23
表3	学生の所属による共通教養科目の履修制限	30
表4	同一科目とみなされる共通教養科目の一覧	30

付録

共通教育科目の各学部履修例	31
福井大学建物配置図	34

共通教育科目履修上の基本用語

- 「授業」** 講義，演習，実験，実習若しくは実技のいずれかの方法により又はこれらの併用により行うこと。
1 年間の授業は定期試験等の期間を含め，35 週にわたることを原則とする。
各授業科目の授業は，15 週にわたる期間で実施する（定期試験を除く）
- 「履修」** 各科目の授業に出席し，自習を含め，学ぶこと。
- 「単位」** 1 単位で構成される授業科目にあつては，45 時間の学修（予習・授業・復習）を必要とする内容をもって構成し，以下のとおり単位の計算方法が定められている。
- 一 講義及び演習については，15 時間から 30 時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて 1 単位とする。
 - 二 実験，実習及び実技については，30 時間から 45 時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて 1 単位とする。ただし，芸術等の分野における個人指導による実技の授業については，大学が定める時間の授業をもつて 1 単位とすることができる
 - 三 一の授業科目について，講義，演習，実験，実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については，その組み合わせに応じ，前二号に規定する基準を考慮して大学が定める時間の授業をもつて一単位とする。
- 「単位の修得」** 一つの授業科目を履修した上で，定期試験を受験及びその他の試験等による成績評価を受け，その結果合格と判定されると，その科目の履修時間に応じた単位を修得したことが認定されること。
- 「必修」** 必ずその科目の単位を修得しなければならないこと。
- 「選択」** 一定の範囲の科目の中から，履修する科目を自由に選ぶこと。
- 「選択必修」** 一定の範囲の科目の中から科目を選択し，指定された単位数を必ず修得しなければならないこと。

共通教育科目履修に必要な資料

1. 共通教育科目シラバス 大学 HP より WEB (<https://syllabus1.sao.u-fukui.ac.jp/>) で閲覧
2. 授業時間割表（共通教育科目）

はじめに

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

福井大学では、平成28年度に学部および学科の改組が行われ、同時に教育課程の改編が行なわれました。さらに令和2年度に、改組後の教育課程を見直して再度の改編を行っています。文京地区における教育は、各学部（教育学部、工学部、国際地域学部）に対して共通教育部が担当する「共通教育」科目と、各学部で行われる「専門教育」科目からなります。

この手引は、共通教育部が担当する文京地区における「共通教育」の目的と内容、「共通教育」科目の履修方法、それに「共通教育」として卒業までに必要な単位の修得方法を説明するために編集されたものです。「共通教育」に関する事項をすべて記載してありますので、履修上の間違いや修得単位の不足がないように、この手引きを良く読んでください。

共通教育を修学する時期は、専門分野の異なる学生が一同に会し、学問に関することだけではなく、いろいろな事象に関して議論や意見交換、さらには経験ができる時期であり、専門教育で得られる経験とは別の方向で、卒業後に役に立つはずです。そして、共通教育の授業内容が、それらの学びを支援してくれるものと信じます。学生皆さんの学修意欲と相まって、「共通教育」が真に充実した大学教育となることを心から願っています。

共通教育部（文京キャンパス）

《共通教育の理念》

共通教育は、学生に広く学問の知識や方法を修得させることによって、グローバル化した社会や知識基盤社会に対応できる総合的な判断力と行動力を有し、地域社会の発展に貢献できる人間性豊かな社会人となるための「教養」を身につけさせるとともに、円滑なコミュニケーションの基盤となる高い語学力及び専門科目の履修に必要な知識等を修得させることを目標とする。

I 共通教育の目標と概要

1. 共通教育とは

「共通教育」は、諸君が広く学問の知識や方法を学び、グローバル化した社会や知識基盤社会に対応できる総合的な判断力と行動力を有し、地域社会の発展に貢献できる人間性豊かな社会人となるための「教養」を身につけるとともに、円滑なコミュニケーションの基盤となる高い語学力及び専門科目の履修に必要な知識等を修得することを目標として設けられた教育課程です。

この目標を達成するために、諸君全員が、この手引きで示される方法に従って、「共通教育科目」を履修し、指定された単位を必ず修得しなければなりません。

2. 共通教育の教育課程編成の方針

本学における共通教育の目標に基づく教育課程編成の方針は、以下のとおりとなっています。

共通教育の目標を達成するために、その教育課程は、大学における勉学の円滑な開始、本学の目的の一つである地域貢献の意義の理解、広い視野を持てる基礎的知識の獲得、実践的課題に取り組む能力の育成を骨子として、以下のような編成とする。

1. 高校生活から大学生活への円滑な移行を促し、自立的な修学態度の確立を支援するために、「入門科目」を1年次前期に設ける。
2. 大学教育の早い段階で身につけておくべき能力や社会人に求められる基礎的な能力を涵養するために、各学部における教育の特性に応じた形で「基礎教育科目」を設ける。
3. 現代的に編成された教養教育を実現するために、「地域コア科目群」と「教養教育科目群」並びに「教養専門教育科目群」によって構成される「共通教養科目」を設ける。
4. 「地域コア科目群」は、各学部における地域に資する人材育成のための入門・基礎的科目として、地域の諸課題に対する認識と関心を育成する目的のもとに、「ものづくり・産業振興・技術経営分野」「持続可能な社会・環境づくり分野」「原子力・エネルギー分野」の3分野によって構成する。
5. 「教養教育科目群」は、従来の人文科学、社会科学、自然科学という区分を越え、現代社会の複合的・学際的諸問題や科学技術リテラシーを幅広く学修させるという目的のもとに、「人間理解・言語コミュニケーション分野」「歴史・文化理解分野」「社会経済分野」「科学技術分野」の4分野によって構成する。
6. 「教養専門教育科目群」は、各学部や学科で開講されている初年次および2年次の専門教育科目の一部を、他学部、他学科の学生に対し、所属の垣根を越えて履修できるように開放する科目である。自分の専門とは異なる分野の専門科目にも関心を高め、より広い視野で見聞を深め、身につけることができるだけでなく、自分の専門分野の位置づけを自覚し、より深く学ぶことができるよう、「教育学分野」「工学分野」「国際地域学分野」の3分野によって構成する。

3. 共通教育科目の構成

共通教育の目標と教育課程編成の方針に基づいて、共通教育科目は以下のような構成となっています。p.20 の表 1 にそれぞれの科目・学習目標を掲載しています。

3. 1 入門科目（大学教育入門セミナー）

「入門科目（大学教育入門セミナー）」は、大学生に求められる学修方法への転換を助け、大学生生活を健康かつ有意義に過ごすことができるよう、自ら考え行動するためのヒントを得るとともに、大学生活の初期の段階で、所属する学部の課程・学科などの担当教員による指導を受け、自らの専門分野を自覚し、また、より広い視野をもって大学での勉学に取り組めるようになることを目的としています。

3. 2 基礎教育科目

「基礎教育科目」は、これから受ける大学教育のために、あるいは社会人として身につけておくべき基礎的な能力を養うためのもので、外国語科目、保健体育科目及び情報処理基礎科目からなります。ただし、外国語科目と保健体育科目については、学部ごとに修得しなければならない単位数及び履修方法が異なりますので、p.6～p.9 の履修方法と p.23 表 2 基礎教育科目の授業科目及び単位表を確認してください。

（1）外国語科目

外国語科目は、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、日本語から構成されています。英語は、高校までに修得した語学力にさらに磨きをかけて、グローバルコミュニケーションの能力を高め、国際理解に必要な知識やスキルを獲得することを目的としています。

ドイツ語、フランス語、中国語は、皆さんのほとんどがこれまで触れたことのない外国語に新たに挑戦して、その外国語に関する基礎的知識を身につけて外国文化の理解を深めることを目的としています。

日本語は、主として外国人留学生が大学で専門の勉強をするために必要な日本語を習得することを目的としています。なお、外国人留学生以外でも日本語を母語としない場合は、受講が可能ですので、希望する場合は教務課に相談してください。

（2）保健体育科目

保健体育科目は、各種身体運動の実践を通して、スポーツや運動に関する技能や知識、並びにコミュニケーション能力を身につけることによって、健康で明るい学生生活、ひいては生涯を通じた健康生活の基礎を築くことを目的としています。保健体育科目「スポーツ健康科学」では、各種競技スポーツ及びレクリエーションスポーツの実践を通して、学生生活並びに生涯にわたる健康とスポーツ実施のために必要な知識・技能の修得を目的とします。また、体力測定評価の方法について学ぶことで、自己及び他者の体力について理解を深め、発育発達を考慮した健康・体力の保持増進のための技能と知識を修得することを目的とします。

(3) 情報処理基礎科目

情報処理基礎科目（情報処理基礎）は、コンピュータや情報ネットワークを正しく活用するための基礎知識と情報処理技術を修得することを目的としています。ここで身につけた知識と技術は、個々人の専門を学ぶ上で必要なものとなります。高度情報化社会において、情報モラルやセキュリティといった情報を扱うための正しい知識と理解が求められており、情報に対して正しい判断で安全に利用できなければなりません。そのため情報処理基礎科目は、コンピュータ・リテラシー教育として基礎教育科目の一つに位置づけられています。

3. 3 共通教養科目

共通教養科目は、地域の知の拠点として地域に貢献することを使命とする福井大学において学ぶ皆さんが、地域の諸問題とその解決に関する基礎的知識を修得するとともに、自分の専門にとらわれず、広い分野の知識や方法、考え方を身につけることを目的としており、「地域コア科目群」、「教養教育科目群」、「教養専門教育科目群」から構成されています。

(1) 地域コア科目群

地域コア科目群は、地域社会の諸課題に対処できる実践力を有する人材へと成長していくための基礎的知識を修得することを目的としています。この科目群は、地域産業の発展やイノベーションについて学ぶ「ものづくり・産業振興・技術経営分野」、持続可能な環境や地域づくりについて学ぶ「持続可能な社会・環境づくり分野」、エネルギーの総合的開発と防災・危機管理について学ぶ「原子力・エネルギー分野」の3分野から成っています。

(2) 教養教育科目群

教養教育科目群は、広い知識を持ち、総合的な判断力を持つ良識ある社会人となるための教養を身につけることを目的としています。この科目群は、人間の思想形成の在り方、心理的・身体的発達・特性、言語コミュニケーションについて学ぶ「人間理解・言語コミュニケーション分野」、日本及び世界における歴史・文化のさまざまな様相について幅広い視点から学ぶ「歴史・文化理解分野」、現代社会の諸問題について、社会科学の知見に基づく多様な視点から学ぶ「社会経済分野」、科学技術や自然について多様な角度から学び、科学リテラシーを身につける「科学技術分野」の4分野から成っています。

(3) 教養専門教育科目群

教養専門教育科目群は、各学部や学科で開講されている初年次の専門教育科目の一部を、他学部、他学科の学生に対し、所属の垣根を越えて履修できるように開放している科目です。自分の専門とは異なる分野の専門科目にも関心を高め、より広い視野で見聞を深め、身につけることができるだけでなく、自分の専門分野の位置づけを自覚し、より深く学ぶことができるよう、「教育学分野」「工学分野」「国際地域学分野」の3分野から成っています。

II 共通教育科目の履修方法

ここでは、共通教育科目を構成する「入門科目」、「基礎教育科目」、「共通教養科目」の具体的な履修方法を説明します。

共通教育科目として修得しなければならない単位数は、教育学部及び工学部では 28 単位、国際地域学部では 32 単位です。その内訳は、「入門科目」として大学教育入門セミナーの 2 単位、「基礎教育科目」として教育学部及び工学部 8 単位、国際地域学部 14 単位、「共通教養科目」として教育学部及び工学部 18 単位、国際地域学部 16 単位となっています。

これらの履修に際しては、以下で説明するように、所属する学部や課程・学科等で履修上の条件や制限が定められており、また、科目によって、履修する学年、学期、クラスなどが指定されていますので、注意してください。何らかの都合で、指定されたとおりに履修できない場合には、あらかじめ教務課に相談してください。

1. 入門科目（大学教育入門セミナー）

入門科目（大学教育入門セミナー）は 1 年次前期に開講される 2 単位の必修科目です。クラスは、各学期前に配付される授業時間割表（共通教育科目）で指定されます。授業は共通講義 6 回と各学部別の個別授業 9 回に分かれています。

1. 共通講義の内容は次のとおりです。

- (1) 大学・学問とは何か、大学の教育と学び、大学教育をめぐる状況と取り組み
- (2) 共通教育と専門教育 ―その理念・目的と学び―
- (3) 賢い暮らし・安全な生活
- (4) 食とからだの健康―学生生活と健康管理に関する啓発―
- (5) こころの健康―青年期のこころに関する啓発―、ハラスメントと人権、災害時における安否報告（ANPIC）ガイダンス
- (6) キャリア・デザイン、学部特有のキャリア教育

2. 共通講義では、毎回、所定の用紙に必要事項（所属、学籍番号、氏名等と、簡単な課題に対するミニレポート等）を記入し、講義終了時に必ず提出してください。また、出席管理は講義室に設置されている出席カードリーダーでも確認するので、毎回、学生証を持参し、授業開始前に対応すること。

3. 共通講義をやむを得ず欠席した場合は、講義担当者から提示される課題（掲示などで通知されます）に答えるレポートを所定の期限までに提出すること。

4. 個別授業は、共通講義が終了後、翌週から開講し、各学部によって内容が異なります。日程・会場などは学部から掲示や学生ポータルで知らせます。

5. 成績は、共通講義（6 回）と個別授業（9 回）の各判定結果を総合して評価します。

- (1) 共通講義と個別授業を合わせて 5 回以上欠席した場合は、この科目の単位修得を認めません。次年度以降に共通講義と個別授業の両方の再履修が必要です。
- (2) 共通講義あるいは個別授業のいずれか一方の評価が、60 点未満（不可又は F）となった場合には、この科目の単位修得は原則として保留とします。次年度以降に 60 点未満（不可又は F）となった共通講義（6 回）あるいは個別授業（9 回）のみを再履修し合格する

ことで単位を修得できます。

(3) 共通講義と個別授業の両方が「不可又はF」の場合は、この科目の単位修得は認められません。次年度以降に共通講義と個別授業の両方を再履修してください。

2. 基礎教育科目

基礎教育科目として修得しなければならない単位数は、学部によって異なっており、以下のとおりです。

教育学部生：外国語科目 4 単位、保健体育科目 2 単位、情報処理基礎科目 2 単位、合計 8 単位

工学部生：外国語科目 6 単位、情報処理基礎科目 2 単位、合計 8 単位

国際地域学部生：外国語科目 12 単位、情報処理基礎科目 2 単位、合計 14 単位

2. 1 外国語科目

外国語科目として、英語は必修科目です（後述のように、工学部及び国際地域学部の外国人留学生の場合には、日本語プレースメントテストの結果により英語の代わりに日本語が必修に指定されることがあります）。その他に第二外国語として、ドイツ語、フランス語、中国語及び日本語（外国人留学生対象）が開講されています。

全ての外国語科目は、1 科目 1 単位です。なお、国際地域学部では、外国語科目は、週 2 回開講のクォータ制です。ただし、日本語のみ週 1 回開講のセメスター制です。

教育学部と工学部では、第二外国語は卒業に必要な外国語科目の単位としては算入できません。教育学部と工学部の学生が第二外国語の科目を履修する場合は、国際地域学部で開講されている第二外国語の授業を受けることになります。なお、国際地域学部の第二外国語の授業はクォータ制で実施されます（週 2 回開講）。（注）教育学部や工学部の学生が国際地域学部で開講される第二外国語の授業を受けた場合、当該科目の単位の両学部における扱いには、① 自由選択履修の単位とする（卒業要件単位の内）、② 第二外国語の単位とする（自由科目のため卒業要件単位の外）、の二通りがあります。① のケースについては、3. 1 の（3）の c で説明します。

学部ごとの外国語科目の履修方法は次のとおりです。

【教育学部】

教育学部の外国語科目の履修課程は次のとおりです。

学部	1 年	
	前期	後期
教育学部(4単位)	英語Ⅰ	英語Ⅲ
	英語Ⅱ	英語Ⅳ

※外国人留学生も英語 4 単位が必修です。

※教育学部の学生は、英語のほかに、母語以外の言語（ドイツ語、フランス語、中国語、日本語）を自由選択履修として受講することが可能です。

【工学部】

工学部の履修課程は次のとおりです。

学部	1年		2年	
	前期	後期	前期	後期
工学部(6単位)	英語Ⅰ	英語Ⅲ	英語Ⅴ	英語Ⅵ
	英語Ⅱ	英語Ⅳ		

※外国人留学生は、1年次前期の履修登録前に必ず日本語プレースメントテストを受けてください。その判定結果によって、外国語科目の必修科目が決定されます。上級レベルと判定された場合は、英語6単位が必修です。上級レベルに達していないと判定された場合は、日本語6単位が必修です。(3年次編入学の外国人留学生は、原則、「英語」が必修科目ですが、英語の代わりに日本語の履修を希望し、日本語プレースメントテストを受けた結果、上級レベルに達していないと判定された場合は、日本語6単位を必修とすることができます)。

※工学部の学生は、必修の外国語科目のほかに、母語以外の言語(英語、ドイツ語、フランス語、中国語、日本語)を自由選択履修として受講することが可能です。

※次のとおり「大学以外の教育施設等における学修」としてTOEIC及びTOEFLで取得したスコアが指定する基準に達した場合は、共通教育科目の外国語科目(英語)の履修と見做し、単位を認定します。

単位の認定を希望する者は、必要書類に公式認定証の写し等を添えて教務課に願い出てください。

国際地域学部の学生が受講する授業科目は、認定対象から除外されます。

学修の内容	授業科目	単位	評価	備 考
TOEIC 500 以上, 又は TOEFL の iBT 52 以上のスコア	英語Ⅴ, 又は英語Ⅵのいずれか1科目	1	認定	TOEIC 公開テストのスコア, 又は TOEFL の公式テストのスコア(どれも入学以降に得たスコアで, 2年間有効)に限る。
TOEIC 600 以上, 又は TOEFL の iBT 61 以上のスコア	英語Ⅴ及び英語Ⅵの2科目	2	認定	なお, TOEIC IP(カレッジ TOEIC), TOEIC SW, TOEIC Bridge, TOEFL ITP のスコアは認めない。

【国際地域学部】

国際地域学部の履修課程は次のとおりです。

学部	1年		2年			
	前期		前期		後期	
	第1クォータ	第2クォータ	第1クォータ	第2クォータ	第3クォータ	第4クォータ
国際地域学部 (12単位)	英語Ⅰ	英語Ⅴ	第二外国語Ⅰ	第二外国語Ⅱ	第二外国語Ⅲ	第二外国語Ⅳ
	英語Ⅱ	英語Ⅵ				
	英語Ⅲ	英語Ⅶ				
	英語Ⅳ	英語Ⅷ				

※外国人留学生も英語8単位が必修です。外国人留学生は、1年次前期の履修登録前に必ず日本語プレースメントテストを受けてください。その結果、上級と判定された場合は、第二外国語としてドイツ語、フランス語、中国語、日本語の中からいずれかを選択してください。上級に達していないと判定された場合は、第二外国語として日本語4単位を履修しなければなりません。

【外国人留学生】

日本語の履修課程は次のとおりです。

学部	前期	後期
工学部 国際地域学部	日本語 A(中上級) 日本語 C(中上級)	日本語 B(中上級) 日本語 D(中上級)
	日本語 E(上級) 日本語 G(上級)	日本語 F(上級) 日本語 H(上級)

※外国人留学生は、1年次前期の履修登録前に案内がありますが、必ず日本語プレースメントテストを受けてください。詳細は、入学手続き時及び新入生オリエンテーションの際に説明・指示があります。

工学部編入学の外国人留学生が日本語を履修する場合も、必ず日本語プレースメントテストを受けてください。原則、上級クラス（日本語E～日本語H）となりますが、プレースメントテストの結果、中上級クラス（日本語A～日本語D）の履修になることがあります。

2. 2 保健体育科目

(1) 保健体育科目は、教育学部学生（一部の工学部の再履修者を含む）を対象として、「スポーツ健康科学」の科目が1年次前期に開講されます。教育学部の学生は、本科目を全員が履修し、2単位を修得することが必要です。

(2) 開講時限などは下記のとおりです。

曜日	時限	対 象	保健体育科目
木	3	教育学部	スポーツ健康科学

(3) 運動対象領域

a. 本科目で主に行う運動対象領域としては、次のものがあります。

体力測定評価、球技（ゴール型、ネット型、ベースボール型）、レクリエーションスポーツ

b. 身体の障害などで特別の配慮が必要な学生については、ウエルネスクラス（休業期間中に集中授業）を履修することができます。

(4) スポーツ健康科学では、演習形式の授業を実施し、体力測定評価に関する講義及び実習を通して、正しい手順や手法による体力の測定方法及び測定結果を評価するための分析方法について学びます。また、各種球技種目及びレクリエーションスポーツに関する講義と実践を通して、救急法も含めたスポーツ実施のために必要な知識及び技能について学びます。

(5) その他詳細については、保健体育科目の第1回の授業でオリエンテーションを行い説明します。

2. 3 情報処理基礎科目

(1) 情報処理基礎科目（情報処理基礎）は1年次前期に開講される2単位の必修科目です。

(2) 授業は、専用の教室「情報処理演習室」（共用講義棟2階）等で行われます。

ただし、工学部電気電子情報工学科は、「計算機室」（総合研究棟Ⅶ（工学系3号館）2階）

で行います。

(3) すべての学生は各課程・学科毎に指定された次のクラスで履修してください。

【教育学部】

ED－初等（月曜 4 限）	初等教育コース	全員
ED－中等（水曜 2 限）	中等教育コース	全員

【工 学 部】

MS－1（月曜 3 限）	機械・システム工学科	別途，学生ポータルで指示
MS－2（木曜 4 限）	機械・システム工学科	別途，学生ポータルで指示
EI－1（月曜 3 限）	電気電子情報工学科	別途，学生ポータルで指示
EI－2（月曜 5 限）	電気電子情報工学科	別途，学生ポータルで指示
MB－1（水曜 3 限）	物質・生命化学科	別途，学生ポータルで指示
MB－2（金曜 1 限）	物質・生命化学科	別途，学生ポータルで指示
AC（火曜 2 限）	建築・都市環境工学科	全員
AP（火曜 4 限）	応用物理学科	全員

【国際地域学部】

GC（月曜 1 限）	国際地域学科	全員
------------	--------	----

(4) 1 年次前期に単位を修得できなかった場合は，再履修しなければなりません。

教育学部では，後期に再履修クラスが開講されます。希望者は前期終了後に教務課で確認してください。

工学部及び国際地域学部では，再履修クラスはありませんので，次年度の前期に，それぞれの学科クラスで再履修してください。但し，工学部については，学科の担当教員に受講クラスを事前に相談してください。

(5) この科目の予習・復習・課題への対応などのために，「情報処理演習室」を利用することができます。積極的に活用してください。ただし，利用する際は，教職員の指示に従い，情報処理演習室に掲示されている「利用心得」を厳守してください。利用時間は平日午前 8 時半から午後 7 時半までです。

3. 共通教養科目

共通教養科目として修得しなければならない単位数は，教育学部及び工学部の場合 18 単位，国際地域学部の場合 16 単位です。概ね，1 年次から 3 年次までの間に履修してください。但し，各学部で定められているキャップ制（履修単位数の制限）及び留学プログラム等の理由による場合は，この限りではありません。

共通教養科目は，地域コア科目群と教養教育科目群さらに教養専門教育科目群からなります。それぞれの科目群は，さらに学習目標別の「分野」で構成されています。各科目の分類と科目名は p.24～p.29 の表 2 のとおりですが，これらの中から，以下で説明する履修方法に従って科目を選択し，学部ごとに定められた上記の合計単位を修得しなければなりません。

3. 1 履修方法

共通教養科目の履修は、「コア履修」、「均等履修」、「自由選択履修」の三つに分けて行います。

「コア履修」は、地域社会の諸課題を理解し、それに対処できる能力を養うための基礎的知識を修得することを目的としています。「均等履修」は、教養教育科目群のすべての分野にわたって広く教養を身につけることを目的としています。「自由選択履修」は、各自の興味や関心に応じて選択した科目を履修して知識や教養をさらに高めることを目的としています。

具体的な履修方法は以下で説明しますが、「コア履修」、「均等履修」、「自由選択履修」の各々について学部ごとに定められた単位数を修得しなければなりません。

(1) コア履修

- a. 教育学部及び国際地域学部の学生は、地域コア科目群の3分野の中から異なる2分野を選択し、各分野から1科目ずつ計2科目を履修し、合計4単位を修得しなければなりません。
- b. 工学部学生は、地域コア科目群の3分野の中から異なる2分野を選択し、各分野から1科目ずつ計2科目を履修し、さらに必修科目として「持続可能な社会・環境づくり分野」の『科学技術と倫理』（必修）を履修し、合計6単位を修得しなければなりません。

(2) 均等履修

- a. 教育学部学生は、教養教育科目群の「人間理解・言語コミュニケーション分野」と「歴史・文化理解分野」から2科目、「社会経済分野」と「科学技術分野」から『日本国憲法』を含む2科目を履修し、合計4科目8単位を修得しなければなりません。
- b. 工学部及び国際地域学部学生は、教養教育科目群の「人間理解・言語コミュニケーション分野」と「歴史・文化理解分野」から2科目、「社会経済分野」と「科学技術分野」から2科目を履修し、合計4科目8単位を修得しなければなりません。

(3) 自由選択履修

- a. 教育学部学生は、地域コア科目群、教養教育科目群及び教養専門教育科目群の中から3科目（6単位）以上を自由に選択し、コア履修、均等履修、自由選択履修の合計修得単位数が18単位以上になるまで履修しなければなりません。
- b. 工学部学生は、地域コア科目群、教養教育科目群及び教養専門教育科目群の中から2科目（4単位）以上を自由に選択し、コア履修、均等履修、自由選択履修の合計修得単位数が18単位以上になるまで履修しなければなりません。
- c. 教育学部学生及び工学部学生は、国際地域学部で開講されている第二外国語科目（ドイツ語科目、フランス語科目、中国語科目）の授業を受講して、その単位を各自の学部の自由選択履修の単位とすることができます。なお、国際地域学部の第二外国語科目の授業はクォータ制で実施されます（週2回開講）。
- d. 国際地域学部学生は、地域コア科目群、教養教育科目群及び教養専門教育科目群の中から2科目（4単位）以上を自由に選択し、コア履修、均等履修、自由選択履修の合計修得単位数が16単位以上になるまで履修しなければなりません。

3. 2 履修制限

- (1) 各自が所属する学部、課程又は学科の定めや資格取得の要件などにより、履修しなければならない科目や、履修できない科目が指定されている場合があります。科目を選択する際には、p.30表3を十分に確認してください。

(2) 科目によっては、履修内容が酷似している科目があり、それらは同一科目としてみなされ、重複して履修できない場合があります。科目を選択する際は、この「手引き」の p.30 の表 4 を十分確認してください。

(3) 開講している科目でも、入学年度によっては履修要件、履修方法が異なるため、履修対象外科目の場合があります。授業時間割表の備考欄（注意事項）を確認してください。

3. 3 開講曜日・時間

(1) 共通教養科目は、前期には月曜日（2時限）、火曜日（1時限）、木曜日（1時限）、後期には月曜日（1時限）、火曜日（2時限）、木曜日（1時限）のいずれかに開講されます。1年次から3年次までの間、原則として上記の時間帯に専門教育科目は開講されません。

(2) 工学部必修科目の「科学技術と倫理」は前述（1）とは異なった時間枠に開講されます。後期の時間割を確認し、1年次に指示されたクラスで履修してください。

MS（火曜1限） 機械・システム工学科

EI（水曜1限） 電気電子情報工学科

MB（木曜3限） 物質・生命化学科

AC・AP（金曜1限） 建築・都市環境工学科、応用物理学科

(3) 各科目が開講される学期、曜日、時限及び講義室や対象とする学年や受入数の限度などは、授業時間割表(共通教育科目)に示されています。

4 教員免許状取得希望者の必修科目

幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校の教諭の普通免許状（工学部の学生は、高等学校の理科、工業に限る）を取得しようとする者は、共通教育科目から次の科目の単位を必ず修得しなければなりません。ただし、国際地域学部学生は教員免許状を取得することはできません。

1. 教育学部の学生

「日本国憲法」（2単位）・・・[＝日本国憲法]

「スポーツ健康科学」（2単位）・・・[＝体育]

「英語」（2単位）・・・[＝外国語コミュニケーション]

「情報処理基礎」（2単位）・・・[＝情報機器の操作]

2. 工学部の学生

「憲法概論」（2単位）・・・[＝日本国憲法]

「スポーツ健康科学」（2単位）・・・[＝体育]

「英語」（2単位）・・・[＝外国語コミュニケーション]

「情報処理基礎」（2単位）・・・[＝情報機器の操作]

「地域の局地気象◆」、「自然史と生物◆」、「植物の生活史と進化◆」

注（1）上の〔 〕の中の科目名は、免許法施行規則第 66 条の 6 で定められている科目です。

（2）◆印の科目は、工学部の学生が高等学校教諭（理科）の一種免許取得のため必要な教科に関する必修科目です。

（3）外国人留学生で、日本の教員免許状を取得しようとする場合は、留学生担当の教員や教務課で相談してください。

5 まとめ

これまで述べたように、共通教育で修得しなければならない単位の合計は、教育学部学生及び工学部学生の場合 28 単位、国際地域学部学生の場合 32 単位です。以下の表は、それらの内訳の概要をまとめたものです。修得すべき単位をもう一度確認してください。

共通教育科目の履修方法及び修得要件

学部		教育学部	工学部	国際地域学部
卒業要件単位		28単位	28単位	32単位
入門科目		2単位	2単位	2単位
	(必修) 大学教育入門セミナー	2	2	2
基礎教育科目		8単位	8単位	14単位
内訳	外国語科目(各科目1単位) (必修) 英語 I ~ Ⅳ ^{※1}	4	6	8 ^{※2}
	(選択必修)(各科目1単位) ドイツ語・フランス語・中国語 I ~ IV 日本語 A ~ H(留学生科目)			4
	保健体育科目(選択必修) (1科目2単位) スポーツ健康科学	2		
	情報処理基礎科目(必修) (1科目2単位) 情報処理基礎	2	2	2
共通教養科目		18単位	18単位	16単位
内訳	地域コア科目群(コア履修) ・ものづくり・産業振興・技術経営分野 ・持続可能な社会・環境づくり分野 ・原子力・エネルギー分野	4 ^{※3}	6 ^{※3}	4 ^{※3}
	教養教育科目群(均等履修) ・人間理解・言語コミュニケーション分野 ・歴史・文化理解分野 ・社会経済分野 ・科学技術分野	8 ^{※4}	6 ^{※5} 8 ^{※4} 4 ^{※5}	8 ^{※4} 4 ^{※5}
	教養専門教育科目群 ・教育学分野 ・工学分野 ・国際地域学分野			

斜字は、主な授業科目名である。

※1 工学部及び国際地域学部の外国人留学生は、入学時の日本語プレースメントテストの結果により、外国語科目として日本語の履修が必要となることがある。

※2 国際地域学部の外国語科目(日本語以外)は、1科目週2回開講のクォータ制で実施する。

※3 コア履修は、3分野の中から2分野を選択し、各分野で1科目以上選択必修(2科目4単位)。なお、工学部はこれとは別に「持続可能な社会・環境づくり分野」の『科学技術と倫理』を必修科目とする。

※4 均等履修は、「人間理解・言語コミュニケーション分野」と「歴史・文化理解分野」の内から2科目4単位、並びに「社会経済分野」と「科学技術分野」の内から2科目4単位を選択必修。なお、教育学部は「社会経済分野」の『日本国憲法』を必修科目とする。

※5 コア履修及び均等履修の他に、自由選択履修として地域コア科目群、教養教育科目群並びに教養専門教育科目群から各学部の共通教養科目要件単位数に達するまで履修。また、教育学部と工学部は第二外国語を自由選択履修に含めることができる。

III 共通教育科目の履修登録方法

これまで共通教育科目の履修方法を説明しましたが、それらを実際に履修するためには、各学期が始まる前の所定の期間に、自分が履修しようとする科目を共通教育部（事務担当：教務課）に届け出なければなりません。このことを履修登録といいます。履修登録を行い、共通教育部から履修を認める科目の通知を受けて、履修する科目が確定します。

これから、その手続きを説明しますが、履修が認められていない科目の授業に出席しても単位を修得することはできませんので注意してください。英語については、新入生ガイダンス資料で説明しますが、履修登録は教務課が担当教員からのクラス分けの指示により代行するため、原則不要です。

履修登録は、共通教育部及び教務課が諸君の履修状況を把握し、共通教育を実のあるものにするために欠くことのできないものです。以下に、履修登録から、履修科目が確定されるまでの手続きを説明します。

1. 各学期の始まる前に、この「手引き」と「授業時間割表（共通教育科目）」及び「共通教育科目シラバス」によって履修計画をたて、各自の毎学期の時間割表を作成してください。
2. 共通教養科目の選択にあたっては、コア履修、均等履修、自由選択履修の区分ごとに修得すべき単位数が定められていますので、注意してください。履修した科目については、その単位修得状況を各学期末の指定された期間に公開される学業成績で確認し、修得すべき残りの単位数を把握して計画的な履修に努めてください。

修得する単位を、卒業要件となる「コア履修」、「均等履修」、「自由選択履修」のいずれの単位にするかは、自分で決めます。

3. 共通教養科目は、各曜日について第3希望までを履修登録します。何曜日にどの科目が開講されているかは授業時間割表（共通教育科目）に記載されています。

科目の選択にあたっては、「共通教育科目シラバス」をよく読んで、授業概要、達成目標、授業内容を理解してください。また、履修制限（p.30 及び授業時間割表の備考欄等）に注意してください。「共通教育科目シラバス」は大学HPよりWEBで閲覧可能です。
(<https://syllabus1.sao.u-fukui.ac.jp/>)

共通教養科目において、履修希望者が受講定員数を超えた（受講希望倍率1.0以上）場合、履修者の確定は電算機における抽選となります。前の学期や年度に履修を認められた科目が不合格（不可又はF）だった場合、当該科目の当選率が低くなります。また、前の学期に不合格となった抽選対象科目（共通教養科目）の単位数に応じてペナルティが加算され、履修が難しくなることがありますので、注意してください。

4. 所定の履修科目登録日（期間）までに履修を希望する科目を決め、学生ポータルにログインし履修登録をしてください。学生ポータルは、インターネットを通じて履修登録や、休講、教員からの課題提示、教務課からの事務連絡等の情報が確認できる学習支援システムです。
5. 所定の履修登録期間終了後は、原則として履修科目の変更や追加は認められません。
6. 病気その他のやむを得ない理由で履修科目登録日（期間）に履修登録が出来なかった場合は、

医師の診断書又はその理由を証明する書類（事故証明等）を添えて教務課に願い出てください。

7. 履修登録した科目は電算処理され、履修できることが確定したら、所定の履修確定科目通知日に学生ポータルにより通知しますので、必ず自身で履修確定科目を確認してください。
8. 抽選の結果、共通教養科目履修（教養専門教育科目群を除く）が2科目以下の場合には、履修可能な人数に余裕があった科目について、最大3科目に達するまで履修登録の追加が認められます。追加登録受付の日程・手続きの方法については、掲示・学生ポータルを確認してください。
9. 履修登録が確定した科目の登録変更は認められません。ただし、指定された期間のみ教務課で所定の手続きにより履修取り消しをお願いすることができます（科目の追加や変更ではありません）。履修取り消しの対象科目は、共通教養科目のみで、入門科目及び基礎教育科目はできません。
10. 共通教育が指定した期間終了後の取り消しは認めません。また、履修取り消しの手続きをしないで履修を中止した科目の成績は不可又はFとして扱います。
11. 単位を修得した科目を再度履修することはできません。

IV 共通教育科目の授業日程と履修科目登録期間

共通教育の授業は前期と後期の2学期制で行われます（国際地域学部対象の外国語科目では各学期が更に前半と後半に分けられるクォータ制となります）。授業日程や履修科目登録期間などの日程は授業時間割表（共通教育科目）に記載されています。（臨時の休講・補講などの変更は、学生ポータル通知・掲示等によって通知されます）。

一日の時間割は1時限から5時限に区分され、各時限は90分です。各時限の時間は次の表のとおりです（※状況によっては、6時限に開講する授業もあり得ます）。

1時限	8:45～10:15
2時限	10:30～12:00
3時限	13:00～14:30
4時限	14:45～16:15
5時限	16:30～18:00
※6時限	18:15～19:45

V 成績評価と単位の修得

1. 成績と可否の判定及び成績評価基準

成績の判定は、平素の学習状況、試験及びその他の審査等により総合的に行います。成績は秀、優、良、可、不可の5段階で評価します。成績が秀、優、良、可の場合は合格となり、当該科目の単位を修得したことが認められます。不可の場合は不合格となり、単位を修得できません。

但し、国際地域学部は、A+～D-を合格とし、Fを不合格とする13段階評価において単位の修得に対応します。

成績評価の基準は次のとおりです。

(1) 5段階評価の場合

評価 (評語)	G P	評価基準	評価点
秀	4	目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をあげている。	100点～90点
優	3	目標を十分に達成している。	89点～80点
良	2	目標を概ね達成している。	79点～70点
可	1	目標を最低限達成している。	69点～60点
不可	0	目標を達成していない。	59点～0点

(2) 13段階評価の場合

評価 (評語)	G P	評価基準	評価点
A+	4.00	目標を完全に達成し、傑出した水準に達している。	100点～98点
A	4.00	目標をほぼ完全に達成し、きわめて優秀な成果をあげている。	97点～95点
A-	3.67	目標をほぼ完全に達成し、優秀な成果をあげている。	94点～90点
B+	3.33	目標を十分に達成しており、優秀な部分も多くみられる。	89点～87点
B	3.00	目標を十分に達成している。	86点～83点
B-	2.67	目標を十分に達成しているが、一部について改善の余地がある。	82点～80点
C+	2.33	目標を概ね達成し、優秀な部分もみられる。	79点～77点
C	2.00	目標を概ね達成している。	76点～73点
C-	1.67	目標を概ね達成しているが、一部さらなる学修を必要とする部分も残る。	72点～70点
D+	1.33	最低限の目標は達成しており、中には優秀な部分もみられる。	69点～67点
D	1.00	最低限の目標は達成している。	66点～63点
D-	0.67	最低限の目標は達成しているが、一部さらなる学修を必要とする部分も残る。	62点～60点
F	0	目標を達成していない。	59点～0点

(1)の評語は、英文証明書等にあつては、秀、優、良、可、不可を、A、B、C、D、Fと読み替えます。

それぞれの科目の成績評価方法については、「共通教育科目シラバス」に記載してあります。

2. 出席について

各科目の授業に、原則として毎回出席しなければなりません。やむを得ず欠席する場合は、担当教員に申し出てください。授業時間数のうち3分の1以上欠席（15回授業の5回以上を欠席）した科目の成績は不合格（不可またはF）となります。

3. 履修を中止した場合

p.13のIII 共通教育科目の履修登録方法に記載してあるとおり、履修取消しの手続きをしないで履修を途中で中止した場合には、原則としてその科目の成績を不合格（不可またはF）とします。

4. 試験について

試験は原則として、授業期間終了後に設定された試験期間に実施されます（定期試験）。試験の際は、学生証を持参し、求めに応じて提示しなければなりません。

不正行為は絶対に行わないでください。不正行為をした場合には、本学学則第 64 条及び本学学生懲戒規程によって懲戒処分されるばかりでなく、原則として当該学期に履修登録した共通教育科目の成績評価はすべて「不可」又は「F」となります。

以上の措置は、学年暦に定める試験期間外に行う試験（追試験等）における不正行為に対しても適用されます。また、レポート等が成績評価に含められる場合に、盗作・剽窃を行うことや他人が作成したものを提出することも不正行為として、同様の取り扱いとなります。

5. 追試験について

病気その他のやむを得ない事情により定期試験を欠席した場合は、医師の診断書か、その他事情を証明する書類を添えて、その事由が発生したときから 2 週間以内に追試験を願い出ることができます。教務課に申し出てください。

6. 留学時の「科目未修了」(I : Incomplete) の取扱いについて

留学に伴って共通教育科目の履修期間が影響を受け、成績評価にかかる期末試験の受験や期末レポートの提出等に支障をきたす場合、当該授業の欠席回数が 5 回未満（留学による欠席を含む）に限り、『科目未終了』を願い出ることができます。留学を予定している場合は事前に教務課に相談し、日程が決定次第、申し出てください。

VI 既修得単位の認定と他大学等授業科目の履修

1. 既修得科目（単位）の認定について

1. 学則第 51 条の規定に基づき、本学に入学する以前に他大学等で修得した単位を、本学の単位として認定を受けることができます。認定を希望する場合は、所定の期日（掲示等で指示されます）までに、次の書類を教務課に提出してください。
 - (1) 既修得単位認定願（別紙様式は省略）
 - (2) 在学期間証明書又は卒業証明書
 - (3) 成績証明書
 - (4) 講義概要等（写し可）
2. 既修得単位が認定されたときは、「単位認定通知書」により本人に通知します。
3. 既修得単位の認定及びその申請などについては、あらかじめ教務課で相談してください。

2. 他大学等との単位互換制度について

1. 共通教育科目の内、共通教養科目の履修については、福井県内 7 大学（福井大学、福井県立大学、仁愛大学、仁愛女子短期大学、福井工業大学、福井医療大学、敦賀市立看護大学）及び福井工業高等専門学校が実施する福井県内大学等間単位互換制度を利用し、それぞれの大学等が開講する教養科目等の履修によって代替することができます。
2. 前述 1 の単位互換制度を利用する場合には、履修できる他大学等の科目名や単位数等について教務課担当に相談してください。科目の詳細及び授業計画要項（シラバス）・担当教員・時間割（開講時間帯）、受入限度数などは、各大学等の「特別聴講学生」募集要項や教務課で閲覧できる資料によって確認してください。
3. 助言教員とも相談して、履修を希望する科目が決まったら、所定の期間（掲示等で指示されます）内に「特別聴講学生」としての入学の出願手続きをしてください。この際、共通教養科目としての履修は、1 学期につき 3 科目以内に制限されます。

なお、「特別聴講学生」としての入学に伴う検定料・入学料及び授業料は徴収されません。

4. 受入大学等で入学が許可されれば、教務課を通じて本人に通知され、「特別聴講学生証」が交付されます。

なお、科目毎の聴講希望者が多数の場合は、本学で順位を付けて推薦し（共通教養科目の場合は抽選を行う予定）、また、所定の受け入れ限度数を超えた場合は、受入大学等が推薦順にしたがって選考を行うことになっています。

5. 特別聴講学生としての聴講期間中は、受入大学等の定める範囲内で、附属図書館などの施設が利用できますが、受入大学等の規則等を厳守し、また、本学学生としての本分を忘れないように行動してください。特に、聴講科目の単位修得の見込みが無くなった場合などには、受け入れを取り消されることがあります。
6. 聴講した科目の単位が修得できた場合は、受入大学等から本学へ通知されますので、共通教育委員会が認定した後、学籍簿等に記載されます。
7. 前述 1. の単位互換制度に加え、平成 28 年度から新たに県内 5 大学（福井大学、福井県立大学、福井工業大学、仁愛大学、敦賀市立看護大学）による単位互換の取り組みとして、サ

テラライトキャンパス（大学連携センター（Fスクエア）／アオッサ）で開講される授業や双方向遠隔授業システムを活用した授業があります。これは、県内の大学が地域志向や実践・課題解決型の授業並びに大学特有の特色ある科目を開放し、相互に単位を認定するというものです。令和2年度からはCOC+事業に引き続き、FAA（ふくいアカデミックアライアンス）事業体制の一環として更に参加大学を増やして実施しています。履修できる科目や方法、時間割などは前述の県内大学等間単位互換制度のものとは異なります。サテライトキャンパスで他大学の学生と一緒に学びたい方、他大学の授業に興味がある方は、必ず事前に事務担当者へ相談・確認してください。

また、これらの科目や各大学が設定する地域志向及び実践・課題解決型の授業を履修することで、地域課題等を解決し地域社会に貢献できる人材を育成し認定する「ふくい地域創生士認定制度」も同時に実施されます。本学共通教育における科目名はp.23表2 共通教養科目の授業科目一覧に☆印で表記してありますが、開放科目の内容、履修手続き・方法及び「ふくい地域創生士認定制度」については、大学教育入門セミナーにて具体的に説明します。

3. 放送大学との単位互換制度について

1. 共通教育科目の内、共通教養科目の履修については、放送大学との単位互換制度を利用し、教養科目等の履修によって代替することができます。
2. 履修することができる科目名や単位数、及びそれぞれの科目の詳細及び授業計画要項（シラバス）などは、教務課で閲覧できる資料によって確認してください。
3. 助言教員とも相談して、履修を希望する科目が決まったら、所定の期間（掲示等で指示されます）の内に特別聴講学生出願票を所属する学部の長へ提出してください。この際、共通教養科目としての認定を希望する場合は、別途「放送大学との単位互換における履修認定願」を併せて提出してください。認定できるのは自由選択履修2単位のみです。履修認定の可否については、共通教育委員会で審議の上「履修認定通知書」により通知されます。

なお、「特別聴講学生」としての入学に伴う検定料・入学料は徴収されませんが、授業料は徴収されます。

4. 履修した科目の単位が修得できた場合は、放送大学から本学へ通知されますので、共通教育委員会が認定した後、学籍簿等に記載されます。

4. 入学前及び他大学での既修得単位、他大学や放送大学等との単位互換で修得した科目の単位認定について

1. 前項のIV 1. 2. 3において、本学共通教育科目として卒業要件内に単位を認定された場合、成績通知書や証明書等の成績評価は「認」または「AP」で標記され、GPA算出の対象授業科目からは除外されます。

表1 共通教育科目の学習目標

【入門科目（大学教育入門セミナー）の学習目標】

科目	学習目標
大学教育入門 セミナー	本授業の目的は新入生を対象に、豊かな人間性と専門性を兼ね備えた社会人へと成長するための高い意識と覚悟を持って、大学生活をスタートさせるための手がかりを得ることを目的とする。そのための、 1) 心身共に健康で有意義に学生生活を送るために必要な社会的判断力・知識の習得。 2) 自律的に学ぶことの重要性の認識・理解と、その実践態度を会得するための手がかりを得る。 3) 共通教育と専門教育の意義・役割の理解。 4) 将来に向けたキャリアデザインの重要性の自覚と、学修を通じた自己成長・自己育成の重要性の認識。

【基礎教育科目の学習目標】

科目	学習目標
保健体育科目	保健体育科目は、各種身体運動の実践を通して、スポーツや運動に関する技能や知識、並びにコミュニケーション能力を身につけることによって、健康で明るい学生生活、ひいては生涯を通じた健康生活の基礎を築くことを目標とする。

科目	学習目標
情報処理基礎 科目	大学における講義や実験・実習などを受講したり、研究を進めたりする上で必須となるコンピュータや情報ネットワークを正しく活用するための基礎知識と情報処理技術を修得し、高度情報化社会で必要とされる情報活用能力を養うことを目標とする。学生は以下の項目を学習し、修得することを目標とする。 (1) コンピュータの基本的な使用方法 (2) 電子メールやオフィスソフトの使用方法和留意点 (3) 情報モラルと情報セキュリティ (4) 所属するコースや学科等で必要となる情報処理技術

科目	学習目標
英語	高校までの英語学習の成果をさらに発展させ、英語コミュニケーション能力を高める。 ・英語をグローバルコミュニケーションの手段として捉え、リスニングとスピーキングを統合した実践的な英語力を身につける。 ・リーディングに求められる知識とスキルを身につける。 ・簡単なプレゼンテーションができるようにライティングの基礎を学ぶ。 ・自律的英語学習を習慣づけて、自主的に英語を使うよう意識する。
ドイツ語	ドイツ語を初歩から学び、読む、書く、聞く、話す能力を総合的に身につける。 ・「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」では、初級文法を学びながら、会話や読解の基礎を修得する。 ・「ドイツ語Ⅲ、Ⅳ」では、「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」の内容を補いつつ、より実践的に学び、とりわけコミュニケーション能力の向上を目指す。
フランス語	フランス語圏の言語や文化を理解するために必要なフランス語の基礎的な能力を身につける。 ・「フランス語Ⅰ、Ⅱ」では、発音と綴り字の関係と初級文法を中心に「読む・書く・聞く・話す」ための総合的なフランス語の基礎力を養う。 ・「フランス語Ⅲ、Ⅳ」では、「フランス語Ⅰ、Ⅱ」の内容を補いつつ、より実践的なフランス語の基礎力を養う。
中国語	中国語によるコミュニケーションに必要な中国語基礎力を身につける。 ・「中国語Ⅰ、Ⅱ」では、発音の習得を中心に基礎的な文法事項や語彙、口頭によるコミュニケーションの基礎を修得する。 ・「中国語Ⅲ、Ⅳ」では「中国語Ⅰ、Ⅱ」を基礎に、さらに多様なコミュニケーション表現の基礎を学ぶとともに、書面による中国語の読解・表現力の基礎も養い、「話す、聞く、読む、書く」という総合的な中国語の基礎力を身につける。
日本語	学部にも所属する留学生及び日本語を母語としない学生を対象とし、大学生活で必要とされる日本語能力を、「読む」「書く」「聞く」「話す」4技能についてバランスよく伸ばすことを目標とする。さらに、それらの学習を通して、日本についての理解を深める。 ・「日本語A～D」(中上級)では、これまでに学習した文型・表現を基礎として、日本語による円滑なコミュニケーションができるようになることを目指す。同時に、大学生に求められるアカデミックな日本語に対する意識を高め、その運用力を養う。 ・「日本語E～H」(上級)では、アカデミックな日本語の運用力を高めることにさらに重点をおき、研究活動において求められる日本語能力を養う。

【共通教養科目の学習目標】

地域コア科目群	
地域の知の拠点として地域に貢献することを使命とする福井大学において、地域産業の持続的な発展や産業イノベーションについて学ぶ「ものづくり・産業振興・技術経営分野」、持続可能な環境や地域づくりについて学ぶ「持続可能な社会・環境づくり分野」、エネルギーの総合的開発と防災・危機管理について学ぶ「原子力・エネルギー分野」の諸科目を履修することにより、地域社会の諸課題に対処できる実践力を有するとともに、地域の創造と発展に貢献し、地域のひとづくり、まちづくりに中心的な役割を果たせる人材へと成長していくための知識を修得する。	
教養教育科目群	
以下の4分野の科目群を履修することにより、特定の専門分野に偏ることなく、広く学問の知識や方法を学ぶことによって、普遍的な学究態度を養うとともに、経済・社会のグローバル化が進行する現代において、地域の課題を通して地球規模の課題と向き合うことのできる総合的な判断力を持つ良識ある社会人となるための教養を身につける。	
人間理解・言語コミュニケーション分野	社会における人間の思想形成の在り方、心理的・身体的発達や本質的な特性、言語コミュニケーションの在り方について広い視野から学ぶことによって、知・徳・体・言語に関して、思想、心理、身体、言語等の多様な視点から「人間」の特性や在り方について学習する。
歴史・文化理解分野	日本及び世界における歴史・文化のさまざまな様相について幅広い視点から学ぶことによって、時代、民族、地域、個人等のアイデンティティと歴史・文化とを関連づける視点を身につけ、人々が生きるうえでの歴史・文化の重要性和意義について理解するとともに、社会の様々な面でのグローバル化と多文化共生社会の発展に対応できる豊かな感受性を養う。
社会経済分野	グローバル化や技術の進歩による人、物、情報の量的質的交流と相互的影響の拡大、少子高齢化に象徴される人口構造の変化、それらに伴う国・地域・家族の在り方の変化等、現代社会において我々を取り巻く諸問題について、社会科学の知見に基づく多様な視点から学習することにより、それらの諸問題に対する関心と理解を深めるとともに、幅広い知識の獲得と批判的かつ論理的思考力を養う。
科学技術分野	現代社会において、我々は多様な科学的な技術や文明を享受している。しかしながら、それらの根本原理やそれらが現在および未来の社会に与える影響について、十分な理解と思索ができていないことも往々にして在る。これらの点について、広い視点から関心を持ち、各自の視点で考えていく力を養成する。

表2

共通教育科目区分、授業科目名及び単位数一覧

入門科目の授業科目及び単位数表

区分	授業科目	単位	備考
入門科目	大学教育入門セミナー	2	必修

基礎教育科目の授業科目及び単位数表

区分	授業科目	単位	備考
外国語科目	英語Ⅰ	1	教・工・国必修 週2コマ開講
	英語Ⅱ	1	" "
	英語Ⅲ	1	" "
	英語Ⅳ	1	" "
	英語Ⅴ	1	工必修 週1コマ開講 国必修 週2コマ開講
	英語Ⅵ	1	" "
	英語Ⅶ	1	国際必修 週2コマ開講
	英語Ⅷ	1	" "
	ドイツ語Ⅰ	1	国際選必(教・工自由) 週2コマ開講
	ドイツ語Ⅱ	1	" "
	ドイツ語Ⅲ	1	" "
	ドイツ語Ⅳ	1	" "
	フランス語Ⅰ	1	国際選必(教・工自由) 週2コマ開講
	フランス語Ⅱ	1	" "
	フランス語Ⅲ	1	" "
	フランス語Ⅳ	1	" "
	中国語Ⅰ	1	国際選必(教・工自由) 週2コマ開講
	中国語Ⅱ	1	" "
	中国語Ⅲ	1	" "
	中国語Ⅳ	1	" "
	日本語A	1	留学生科目 週1コマ開講 教育・工学(上級レベル):自由科目 (第2外国語扱い) 工学(上級レベル未満):6単位 (第1外国語扱い) 国際:4単位(第2外国語扱い)
	日本語B	1	
	日本語C	1	
	日本語D	1	
	日本語E	1	
	日本語F	1	
	日本語G	1	
	日本語H	1	
保健体育科目	スポーツ健康科学	2	教育:必修 工学・国際:対象外
情報処理基礎科目	情報処理基礎	2	必修

共通教養科目の授業科目及び単位表

地域コア科目群 (36科目)

分野	授業科目	単位	備考 ☆:地域創生士認定対象科目
ものづくり・産業振興・技術経営分野 9 科目	現代社会とビジネス	2	☆
	現代社会とキャリア・アントレプレナーシップ	2	☆
	ロボットの知能と学習	2	☆
	進化する繊維の技術	2	☆
	現場で役立つ機器分析	2	☆
	半導体の科学	2	☆
	繊維の世界	2	☆
	新素材の世界	2	☆
	地域創生学Ⅱ～ふくいを知る・見る・考える(イノベーション編)～	2	☆大学連携開放科目 集中講義
持続可能な社会・環境づくり分野 15 科目	こども環境学入門	2	☆
	まちづくり論	2	☆大学連携開放科目
	都市と建築の環境	2	☆
	科学技術と環境	2	☆
	科学技術と倫理	2	☆工学部必修
	地域の局地気象	2	☆
	自然史と生物	2	☆
	日本海地域の自然と環境	2	☆前・後期開講
	地球の環境	2	☆隔年(奇数年)開講
	福井の経済と経営者	2	☆大学連携開放科目
	コミュニティと住民組織	2	☆
	地域科学コミュニケーション	2	☆
	地域創生学Ⅰ ～ふくいを知る・見る・考える(概論)～	2	☆大学連携開放科目 集中講義
	地域の自然と環境(福井や日本海地域を中心に)	2	☆大学連携開放科目
	環境とものづくり	2	☆
原子力・エネルギー分野 12 科目	電磁波と物質	2	☆
	エネルギー科学	2	☆
	生活の中の熱とエネルギー	2	☆大学連携開放科目
	熱と流れ	2	☆大学連携開放科目
	エネルギーと環境	2	☆
	災害の科学	2	☆
	災害ボランティア論	2	☆大学連携開放科目
	東日本大震災をどう受け止めるか	2	☆大学連携開放科目 集中講義
	地域の防災・危機管理	2	☆
	原子力安全工学入門	2	☆集中講義
	原子力の安全性(災害と廃炉と放射性廃棄物)	2	☆
	原子力研究のすすめ	2	☆集中講義

教養教育科目群(114科目)

分野	授業科目	単位	備考 ☆:地域創生士認定対象科目
人間理解・言語コミュニケーション分野 39科目	心を探る(心理学概論)	2	
	感情・人格心理学	2	☆大学連携開放科目
	心理学的支援法	2	
	特別支援教育入門	2	
	子どもと学校	2	
	健康科学・医科学概論	2	
	アウトドアスポーツとバリアフリー	2	
	超高齢社会を生き抜くための運動のすすめ	2	
	宗教と哲学	2	集中講義
	スピーキング	2	
	リスニング	2	
	ライティングⅠ	2	
	ライティングⅡ	2	
	リーディング	2	
	ヨーロッパの言語事情	2	
	言語生活論	2	
	言語表現	2	
	応用日本語Ⅰ	2	留学生科目
	応用日本語Ⅱ	2	留学生科目
	中国語の世界1	2	
	中国語の世界2	2	
	ドイツ語の世界1	2	
	ドイツ語の世界2	2	
	フランス語の世界1	2	
	フランス語の世界2	2	
	生涯学習とアクティブ・ラーニングA 仕事を通じた学習プロセスを探る	2	前・後期開講
	生涯学習とアクティブ・ラーニングB 協働学習のファシリテーション	2	前・後期開講
	生涯学習とアクティブ・ラーニングC 協働学習のマネジメント	2	前・後期開講
	こころの成長	2	前・後期開講
	情報化社会の現在と未来	2	☆大学連携開放科目 集中講義
	健康管理と食生活	2	
	多様性を通して社会を考える	2	
	生涯スポーツと健康	2	
	子どもの発育・発達と怪我	2	
	コーチング心理学	2	
	多文化共生の取組と課題	2	留学生と交流クラス
	異文化コミュニケーション入門	2	留学生と交流クラス
	ディスクゴルフとクロッケーの魅力さをさぐる	2	
	英米児童文学を英語で読む	2	

分野	授業科目	単位	備考 ☆:地域創生士認定対象科目
歴史・文化理解分野 35 科目	日本史(中世社会の転換)	2	
	日本史(近世社会の展開)	2	
	発展途上国の人間地生態	2	
	地図に見る歴史と景観	2	☆前・後期開講
	ラテン語とキリスト教	2	
	フランス文学入門	2	
	フランスの文化A(文学と絵画)	2	隔年(偶数年)開講
	フランスの文化B(ジャポニスムとその時代)	2	隔年(奇数年)開講
	ヨーロッパの映画	2	
	ドイツの文化	2	
	東アジアの文化と社会	2	
	中国のことば	2	
	日本語の歴史	2	
	日本の文化	2	留学生科目 前・後期開講
	日本事情	2	留学生科目 前・後期開講
	留学生のための日本文学	2	留学生科目 前・後期開講
	近現代の音楽芸術	2	
	合唱の魅力を探る	2	
	ポピュラー音楽の魅力をさぐる	2	
	ピアノの魅力をさぐる	2	
	西洋音楽史入門	2	
	生活と美術ーみる、えがく、つくる	2	
	造形美術の世界ー表現世界の多様性	2	
	造形美術の世界ー絵画	2	
	考古学入門	2	
	「歴史」のトリビア(歴史文化論から歴史教育まで)	2	前・後期開講 ☆福井大学開講(前期) ☆大学連携開放科目(後期)
	数学史入門	2	
	近現代文化昆虫学	2	
	モノから読み解く文化財学	2	☆集中講義
	アートと地域コミュニティー	2	☆集中講義
	日本文学の楽しみ	2	
	映画で学ぶ西洋近現代史①(18世紀末～大戦間期)	2	
	映画で学ぶ西洋近現代史②(第二次世界大戦～20世紀末)	2	
	ラテン語で読むギリシャ・ローマ神話	2	
	福井県と囲碁	2	☆
社会経済分野 15 科目	経済学A(金融って何だろう)	2	
	経済学B(現代社会とワークルール)	2	
	経済学C(経済学の基礎理論)	2	前・後期開講
	憲法概論	2	前・後期開講

分野	授業科目	単位	備考 ☆:地域創生士認定対象科目
社会経済分野	日本国憲法	2	教育学部必修 前・後期開講
	社会学B(現代農村の社会学)	2	
	政治学A(現代政治学入門)	2	
	政治学B(戦後日本の政治)	2	
	ジェンダー論	2	
	主権者意識をはぐくむ	2	
	マネジメント入門	2	前・後期開講 ☆
	キャリアデザインA(自分の将来について考えてみる)	2	☆
	キャリアデザインB(多様な働き方と仕事のリアル)	2	☆
	インターンシップ(就業体験から将来について考える)	2	☆集中講義
	「生活」とは何か	2	☆大学連携開放科目
科学技術分野 25 科目	音と振動	2	
	バイオの世界	2	
	電子の世界	2	
	生体機能と化学物質	2	
	数値計算の考え方	2	☆大学連携開放科目
	計算機システムの基礎	2	
	生体情報工学	2	
	宮沢賢治と非線形科学	2	
	ゲームとパズルの数学	2	
	数学のことばで理解する物理学	2	
	対称性と微分方程式	2	
	ランダム現象の記述	2	☆
	物理と微積分	2	
	科学的な見方・考え方	2	前・後期開講
	植物の生活史と進化	2	
	ヒトの生物学	2	
	コンピュータと情報処理	2	集中講義 前・後期開講
	対話と直観と共感で学ぶ物理	2	
	数学的活動	2	
	数と方程式	2	
	産業社会の中のセンサ技術	2	
	ニュートリノと放射線	2	
	地震と災害	2	☆大学連携開放科目
	データサイエンス・AI入門	2	☆
	数理・データサイエンス入門	2	☆大学連携開放科目

教養専門教育科目の授業科目及び単位数表

教養専門教育科目群 (79科目)

区分	授業科目	単位	備考
教育学分野 11 科目 (教育学部履修不可)	発達心理学	2	
	西洋史概説	2	
	日本史概説	2	国際地域学部履修不可
	教育測定論	2	
	合唱Ⅰ	1	
	合唱Ⅱ	1	「合唱Ⅰ」を履修していること
	発達障害教育総論	2	
	社会保障法	2	国際地域学部履修不可 隔年(偶数年)開講
	初等確率論	2	
	労働法	2	国際地域学部履修不可 隔年(奇数年)開講
	初等統計学	2	
工学分野 56 科目 機械・システム工学系 (機械・システム工学科履修不可)	人工知能論	2	
	伝熱工学	2	
	ものづくりを支える科学	2	
	加工学Ⅰ	2	
	ロボット材料学	2	
	機械材料Ⅰ	2	
	機械力学Ⅰ	2	
	機械要素設計Ⅰ	2	物質・生命化学科履修不可
	機械要素設計Ⅱ	2	物質・生命化学科履修不可
	原子力・災害関連法令と国際的関係	2	国際地域学部履修不可
	原子炉構造工学入門	2	
	材料力学Ⅰ	2	
	熱力学Ⅱ	2	
	物理化学(b)	2	
	放射化学・放射線化学	2	
	流れ学Ⅰ	2	
電気電子情報工学系 (電気電子情報工学科履修不可)	半導体工学	2	
	計測工学	2	
	システム工学	2	
	電子回路	2	
	電気機器学	2	
	電気回路Ⅰ(a)	2	
	電気エネルギー発生	2	
	電気数学(b)	2	
	電磁気学演習	2	応用物理学科履修不可
	電磁波工学	2	
	離散数学Ⅰ(b)	2	
	固体電子論	2	

区分	授業科目	単位	備考
工学分野 建築・都市環境工学系 (建築・都市環境工学科履修不可)	一般構造	2	物質生命科学科及び応用物理学科履修不可 国際地域学部履修不可
	応用地質学	2	
	建築史	2	
	交通計画	2	
	地震・防災工学	2	
	都市デザイン	2	
	都市計画	2	
	国土・地域づくり論	2	
物質・生命化学系 (物質・生命化学科履修不可)	レオロジー工学	2	
	化学基礎	2	
	機能性高分子	2	
	高分子化学Ⅰ(a)	2	
	生物化学Ⅱ	2	
	生物化学Ⅲ	2	
	分析化学Ⅰ	2	
	有機化学Ⅰ	2	
	有機化学Ⅱ	2	
	有機化学Ⅲ	2	
	有機化学Ⅳ	2	
応用物理学系 (応用物理学科履修不可)	解析力学	2	工学部履修不可 工学部履修不可
	応用数学C(ベクトル解析)	2	
	応用電磁気学	2	
	応用力学	2	
	物理学A(力学)	2	
	物理学B(電磁気学)	2	
	物理学C(波・光)	2	
	物性物理学Ⅰ	2	
	物性物理学Ⅱ	2	
国際地域学分野 12 科目 (国際地域学部履修不可)	国際関係論	2	教育学部履修不可 教育学部履修不可 隔年(偶数年)開講
	国際政策	2	
	国際政治学	2	
	政治学概論	2	
	地域経済論	2	
	地方自治法	2	
	統計入門	2	
	日本語学概論	2	
	日本語の変遷	2	
	日本文化の基礎	2	
	教育における社会正義の問題	2	
	データサイエンスⅠ	2	

表3 学生の所属による共通教養科目の履修制限

各学部や学科ごとに共通教養科目の履修制限を示します。間違いないように履修登録してください。

学部	学科	履修制限事項
全学部		・教養教育科目群 科学技術分野「数理・データサイエンス入門」と 教養専門教育科目群 国際地域学分野「統計入門」をあわせて履修することはできない。詳細はシラバスを参照すること
	機械・システム工学科	・地域コア科目群 原子力・エネルギー分野「熱と流れ」をできない ・教養教育科目群 科学技術分野「生体情報工学」を履修できない ・ロボティクスコース2年生以上は、教養教育科目群 科学技術分野「計算機システムの基礎」を履修できない
	電気電子情報工学科	・教養教育科目群 科学技術分野「数値計算の考え方」を履修できない ・2年生以上は、教養教育科目群 科学技術分野「計算機システムの基礎」を履修できない
工学部	建築・都市環境工学科	・地域コア科目群 持続可能な社会・環境づくり分野「まちづくり論」「都市と建築の環境」を履修できない ・地域コア科目群 原子力・エネルギー分野「災害の科学」を履修できない

教養専門教育科目については、原則として自学部・自学科の科目は履修できません。(専門教育科目として履修します)

その他の履修制限については、表2の備考欄及び授業時間割表(共通教育科目)の備考欄(注意事項)を確認してください。

表4 同一科目とみなされる共通教養科目の一覧

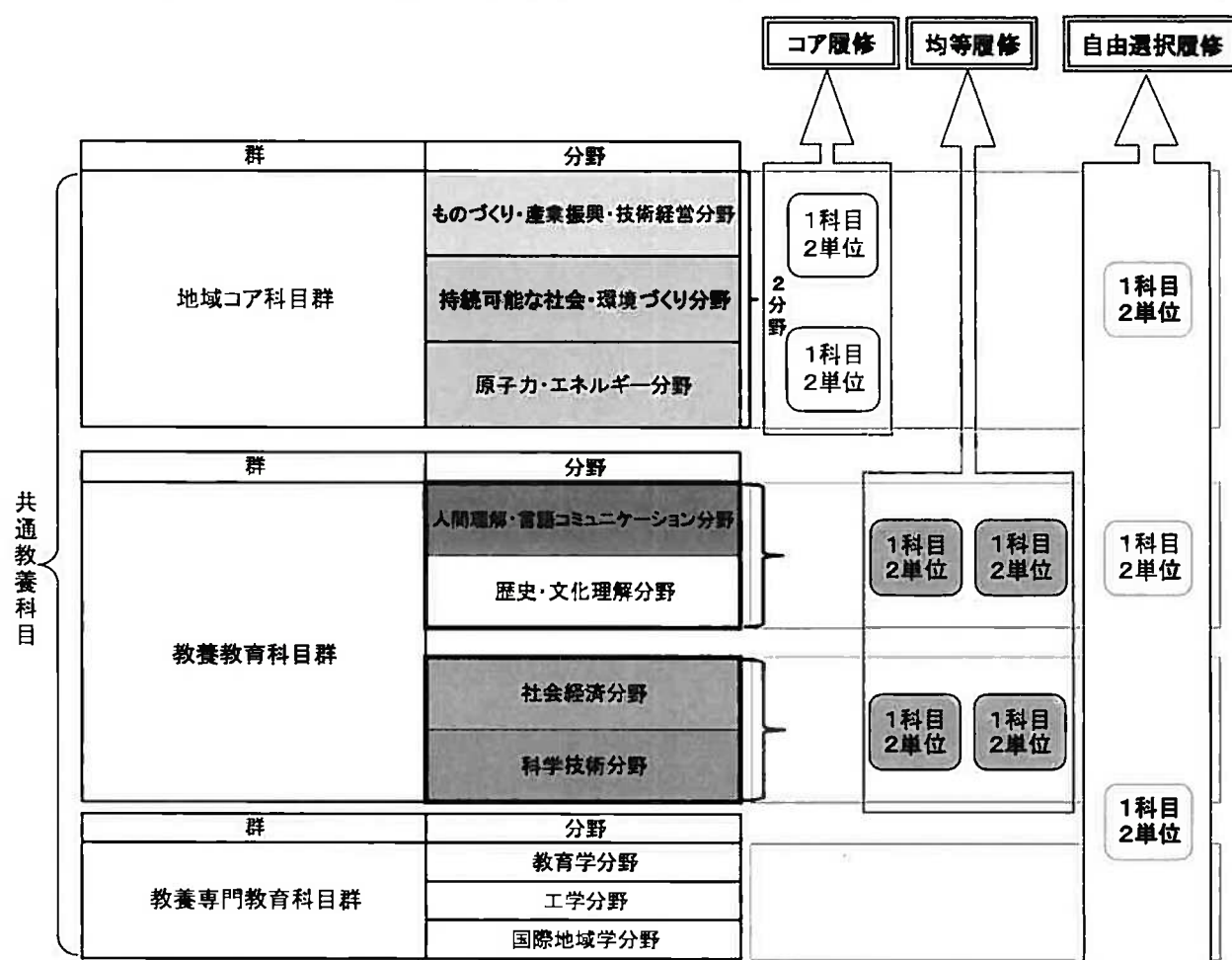
下記に示す科目は同一の科目とみなされ、重複して履修できません。

1. 日本国憲法と憲法概論

・教養教育科目群 社会経済分野 「憲法概論」
・教養教育科目群 社会経済分野 「日本国憲法」

【教育学部】共通教育科目の履修例(28単位)

入門科目	大学教育入門セミナー	1科目 2単位
基礎教育科目	英語 (英語Ⅰ～Ⅳ)	各科目1単位(4単位)
	第二外国語	
	保健体育 (スポーツ健康科学)	1科目 2単位
	情報処理基礎	1科目 2単位



共通教養科目【18単位】

* コア履修【4単位】:

地域コア科目群3分野の内から2分野各1科目

* 均等履修【8単位】:

教養教育科目群の「人間理解・言語コミュニケーション分野」と「歴史・文化理解分野」の内から2科目、
「社会経済分野」と「科学技術分野」の内から2科目(但し、「社会経済分野」の『日本国憲法』を含むこと)

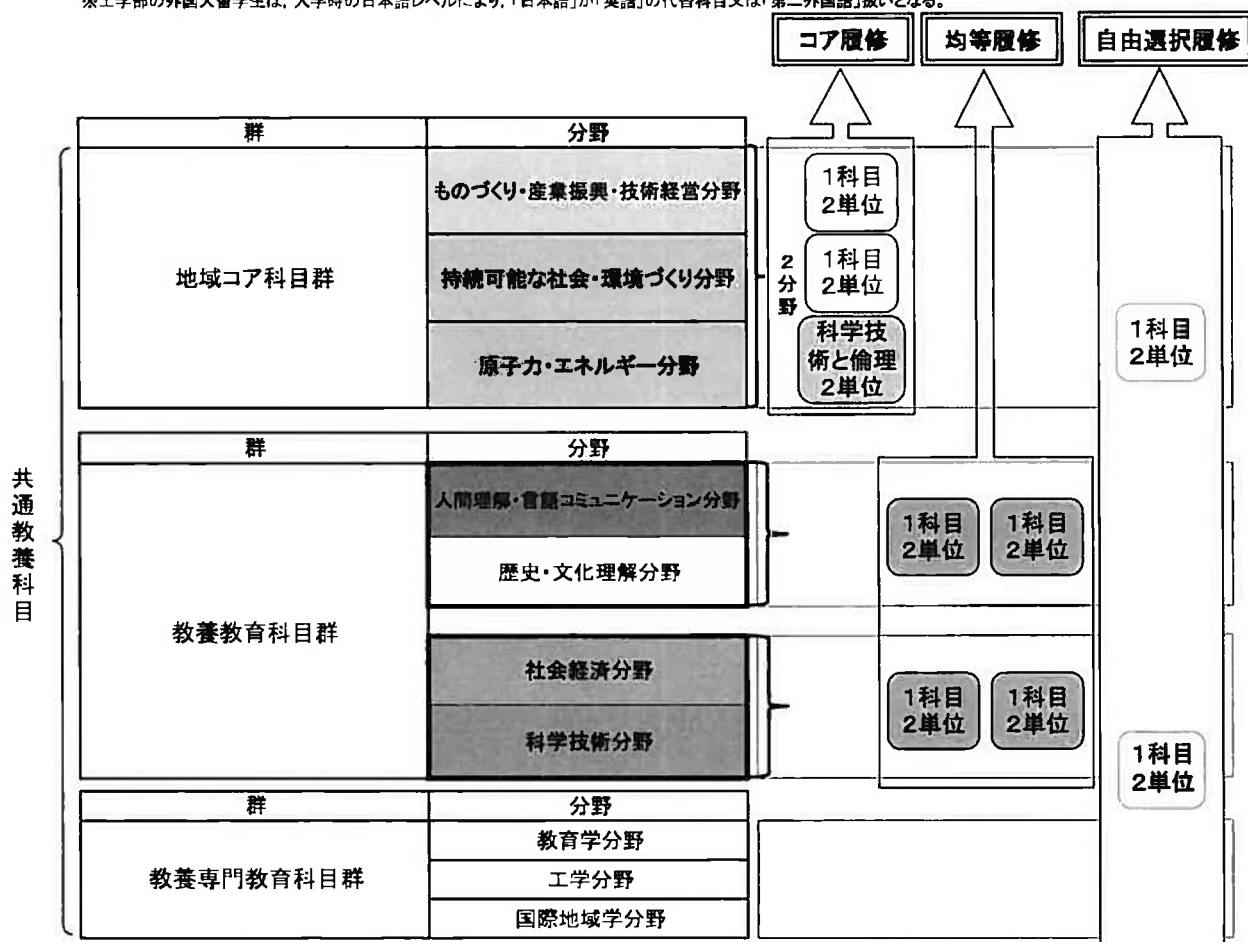
* 自由選択履修【6単位】:

地域コア科目群、教養教育科目群、教養専門教育科目群、及び国際地域学部開講の第二外国語の内から履修

【工学部】共通教育科目の履修例(28単位)

入門科目	大学教育入門セミナー	1科目 2単位
基礎教育科目	英語 (英語Ⅰ～Ⅵ)	各科目1単位(6単位)
	第二外国語	
	保健体育	
	情報処理基礎	1科目 2単位

※工学部の外国人留学生は、入学時の日本語レベルにより、「日本語」が「英語」の代替科目又は「第二外国語」扱いとなる。



共通教養科目【18単位】

* コア履修【6単位】:

地域コア科目群3分野の内から2分野各1科目
及び 上記2科目とは別で、『科学技術と倫理』(必修科目)を履修

* 均等履修【8単位】:

教養教育科目群の「人間理解・言語コミュニケーション分野」と「歴史・文化理解分野」の内から2科目、
「社会経済分野」と「科学技術分野」の内から2科目

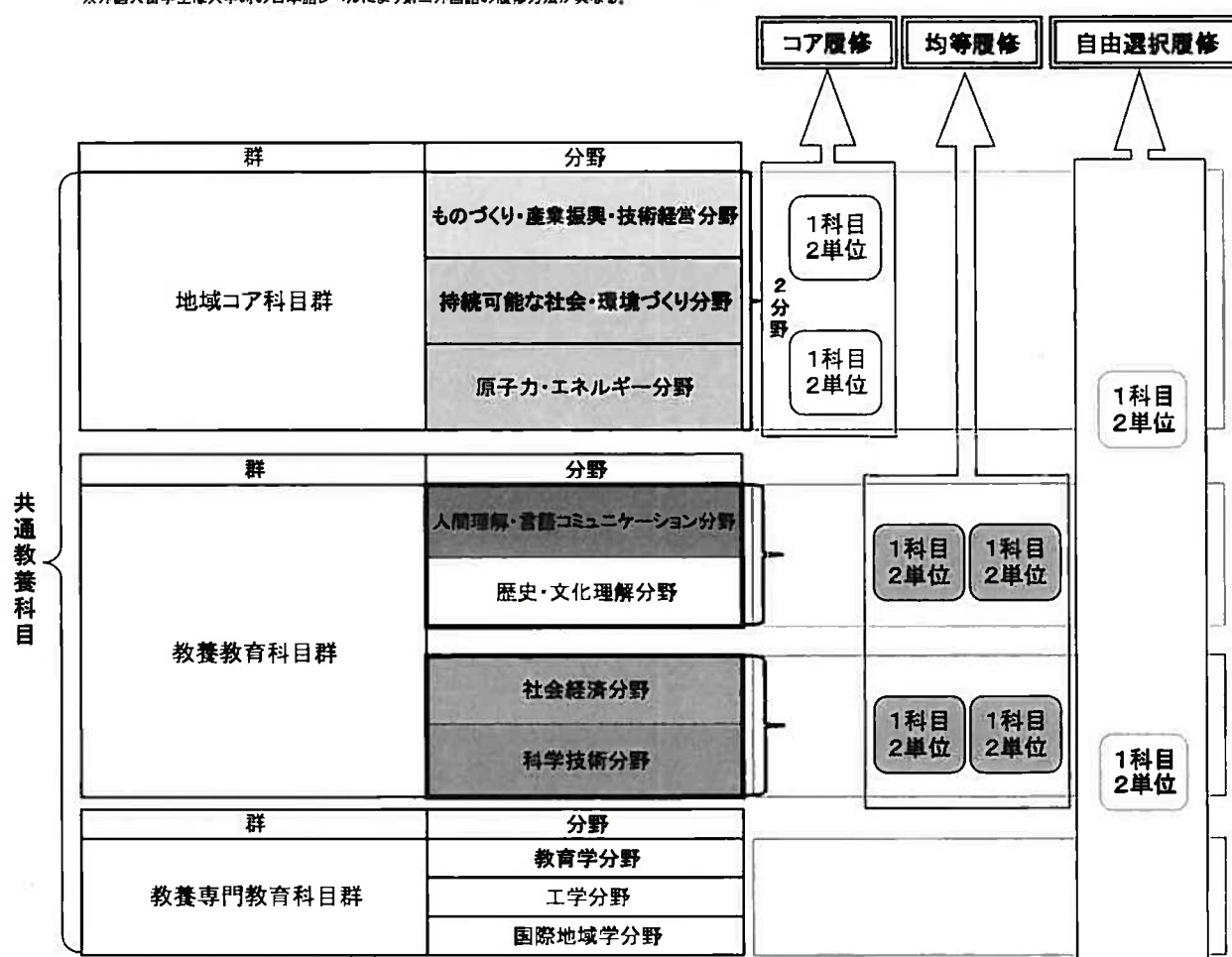
* 自由選択履修【4単位】:

地域コア科目群、教養教育科目群、教養専門教育科目群、及び国際地域学部開講の第二外国語科目の内から履修

【国際地域学部】共通教育科目の履修例(32単位)

入門科目	大学教育入門セミナー	1科目 2単位
基礎教育科目	英語 (英語Ⅰ～Ⅷ)	各科目1単位(8単位)
	第二外国語 (独・仏・中・日※いずれかⅠ～Ⅳ)	各科目1単位(4単位)
	保健体育	
	情報処理基礎	1科目 2単位

※外国人留学生は入学時の日本語レベルにより第二外国語の履修方法が異なる。



共通教養科目【16単位】

* コア履修【4単位】:

地域コア科目群3分野の中から2分野各1科目

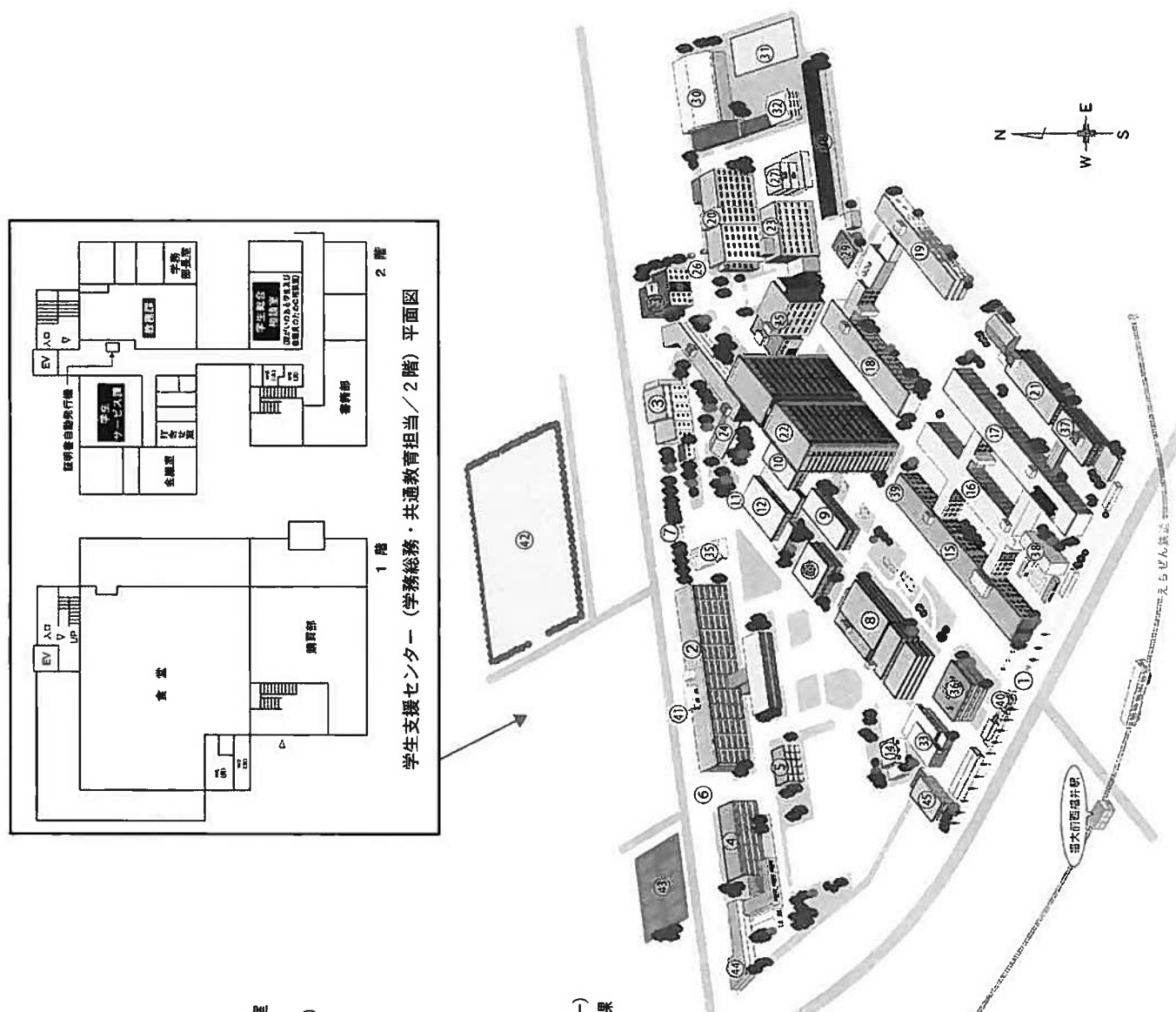
* 均等履修【8単位】:

教養教育科目群の「人間理解・言語コミュニケーション分野」と「歴史・文化理解分野」の中から2科目、
「社会経済分野」と「科学技術分野」の中から2科目

* 自由選択履修【4単位】:

地域コア科目群、教養教育科目群、教養専門教育科目群の中から2科目

付録 福井大学建物配置図



- ①正門
②総合研究棟Ⅴ(教育系1号館)
③共用講義棟
④総合研究棟Ⅵ(教育系3号館)
⑤総合教職開発本部
⑥北門
⑦通門
⑧総合図書館/言語開発センター(LDC)
⑨国際センター(仮称)※工事中
⑩生協(学生食堂/売店/書店)/学生総合相談室
⑪掲示板
⑫学生支援センター(教務課/学生サービス課)
⑬海外活動共用棟
⑭保健管理センター
⑮総合研究棟Ⅲ-1(工学系1号館1号棟)
⑯総合研究棟Ⅲ-2(工学系1号館2号棟)
⑰総合研究棟Ⅲ-3(工学系1号館3号棟)
⑱総合研究棟Ⅳ-1(工学系2号館)
⑲総合研究棟Ⅳ-2(工学系実験棟)
⑳総合研究棟Ⅶ(工学系3号館)
㉑総合研究棟Ⅷ(工学系4号館)
㉒総合研究棟Ⅰ
㉓総合研究棟Ⅱ(遠赤外線域開発研究センター)
㉔アドミッションセンター/国際センター/入試課
㉕産官連携本部
㉖東門
㉗超低温物性実験施設
㉘先端科学技術育成センター
㉙熱工学実験室
㉚第1体育館
㉛プール
㉜第2体育館
㉝アカデミーホール
㉞総合情報基盤センター
㉟多目的ホール
㊱本部棟/キャンパス便/バス停
㊲オーブンR&Dファシリティ
㊳国際センター分室
㊴経理課出納担当
㊵守衛所
㊶弓道場
㊷運動場
㊸屋外球技コート
㊹音楽棟
㊺牧鳥ハウス